

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief 【JLER】



ルーテル教会救援 現地活動 月次報告 No.28

2014年2月度 活動報告 (2014年3月6日発行)

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。

今月は大雪で国内各地が大変なご苦労をされたことと思います。こちらでも、地域力によって除雪の度合いに大きな差ができていました。

となりびとの支援活動は、終結活動と並行して3月まで続きますが、仮設支援の取り組みは、2月でその大半が終了しました。お母さんたちに「また会おうね」と言っていたら、仮設を後にしました。2月の活動を報告いたします。



【となりびと】LCMSが訪問してくれました

2/7、LCMS(Lutheran Church Missouri Synod)から災害支援担当の牧師3名が来仙されました。今回は、現在の担当者から新しい担当者への引継ぎのため、LCMSが支援した前浜コミュニティセンターを訪問しました。

前浜コミュニティセンターを訪問する途中、南三陸町の防災センターで被災状況を確認し、近くの仮設商店街で昼食をいただきました。

その後、前浜コミュニティセンターで現地の方々から実際の利用状況などの説明を受け、「となりびと」のスタッフとの夕食会の後、次の訪問地である福島に向かわれました。

NRKの安藤牧師、北澤スタッフを交えた夕食会では、初めて食べる日本の本当のお寿司に、LCMSの方々はおおかなびっくりの様子でした。メリット氏からとなりびとスタッフに対して「JLERの活動で良かったことは何か？」と質問され話し合ったり、彼らのフィリピンでの活動を聞くなど、有意義なものとなりました。



【支援者支援】カラーセラピー講座終了@石巻市社協河北支所

昨年11月から、仮設住宅の支援を行っている地元、社会福祉協議会所属の訪問支援員、地域福祉コーディネーター、地域福祉アドバイザーの方を対象として行っていたカラーセラピー講座が、2/27に終了しました。

講座1回目は緊張されていた参加者の皆さんも、最終回には講座をリラックスしながら楽しんで受講されている姿が印象的でした。

石巻市河北地区の仮設住宅に住んでおられる方々が新たな住宅に全員が移られるのに、まだ、5年かかると現地では言われています。

その間、この方々が中心となって、仮設住宅の支援を行うこととなります。

今回のこの講座で得られたものを糧にして、全員が仮設住宅から新しい住宅に移られるまで継続的に支援ができることを願っています。

最終回は、これまでの皆さんの作品をハート型にコラージュした寄せ書きの紙を講師の先生が用意してくださいました。河北エリアのみんなを表す「パワフル河北」というキャッチフレーズを地域福祉アドバイザーの方が考えてくださり、そのタイトルや今の想いを皆で書き込み、ハートの周囲に色を塗りました(写真)。この寄せ書きは、支援員さんの事務所の目立つところに飾ってられています。



支援員さんを束ねる主任さんは「思いつきで始まったこの企画だけど、叶えてくださって本当に良かった。支援員のためにもこの作業は続けた方がいいと思ったし、住民さんにも何気なく色を塗ってもらえるような機会を、今後つくっていきたいと思う」と、話してくださいました。

この作業は続けた方がいいと思ったし、住民さんにも何気なく色を塗ってもらえるような機会を、今後つくっていきたいと思う」と、話してくださいました。